

## ルツの書 ルツ記

<sup>1</sup>士師たちがさばいていた時代、その地に飢きんがあった。ユダのベツレヘムの一人の人が、妻と二人の息子を連れてモアブの国へ行き、そこに住んだ。

<sup>2</sup>その人の名はエリメレク、妻の名はナオミであった。二人の息子の名はマフロンとキルヨンで、ユダのベツレヘムのエフラテ人であった。彼らはモアブの国へ行き、そこに住んだ。

<sup>3</sup>ナオミの夫エリメレクは死に、彼女は二人の息子とともに残された。

<sup>4</sup>息子たちはモアブの女たちを妻としてめとった。一人の名はオルパ、もう一人の名はルツであった。彼らは約十年の間そこに住んだ。

<sup>5</sup>やがてマフロンとキルヨンも二人とも死に、その女は二人の子どもと夫を失って残された。

<sup>6</sup>その後、ナオミはモアブの国から帰るために、嫁たちとともに立ち上がった。主\*

がご自分の民を顧み、彼らにパンを与えられたことを、モアブの国で聞いたからである。

<sup>7</sup>彼女は自分のいた場所を出て行き、二人の嫁も彼女と一緒にいた。彼女たちはユダの地に帰るため、その道を進んで行った。

<sup>8</sup>ナオミは二人の嫁に言った。「行きなさい。それぞれ自分の母の家に帰りなさい。あなたがたが亡き夫たちや私に慈しみを示してくれたように、

\* **1:6:1:6** すべて大文字の「主」または「神」はヘブル語のיהוה (ヤハウェ) から来てい

主があなたがたに慈しみを示してくださいますように。

9 主があなたがたに恵みを与え、それぞれ夫の家で安息を見いだすことができますように。」それから彼女が二人に口づけすると、彼女たちは声を上げて泣いた。

10 彼女たちはナオミに言った。「いいえ、私たちはあなたと一緒に、あなたの民のところへ帰りません。」

11 ナオミは言った。「帰りなさい、私の娘たちよ。なぜ私と一緒にいこうとするのですか。あなたがたの夫となる息子たちが、私の胎内にまだいるとでもいうのですか。」

12 帰りなさい、私の娘たちよ。自分の道を行きなさい。私は年老いていて、夫を持つことはできません。たとえ私が『まだ望みがある』と言い、今夜夫を持ち、さらに息子たちを産んだとしても、

13 あなたがたはその子たちが成長するまで待つというのですか。夫を持たずに控えているというのですか。いいえ、私の娘たちよ。主の手が私に逆らって下ったので、私はあなたがたのために非常に心を痛めています。」

14 彼女たちは声を上げて再び泣いた。オルパはしゅうとめに口づけしたが、ルツは彼女にすがりついて離れなかった。

15 ナオミは言った。「見なさい。あなたの義理の姉は自分の民と自分の神のところへ帰って行きました。あなたも義理の姉の後について帰りなさい。」

16 ルツは言った。「あなたを捨て、あなたに従わずに帰るよう、私に強く言わないでください。あなたが行く所へ私も行き、あなたが泊ま

る所に私も泊まります。あなたの民は私の民、あなたの神<sup>†</sup>は私の神です。

17 あなたが死ぬ所で私も死に、そこに葬られます。もし死以外の何かがあるなら、主が私にそのようにされ、さらにそれ以上のことをされますように。」

18 ナオミは、ルツが自分と一緒にいくことを固く決心しているのを見て、彼女を説得するのをやめた。

19 こうして二人は歩み続け、ついにベツレヘムに来た。彼女たちがベツレヘム来ると、町中が彼女たちのことで騒ぎ立ち、女たちは「これはナオミですか」と言った。

20 ナオミは彼女たちに言った。「私をナオミ<sup>‡</sup>と呼ばないでください。私をマラ<sup>§</sup>と呼んでください。全能者が私を非常に苦しい目に遭わせられたからです。

21 私は満ち足りて出て行きましたが、主は私を空のまま連れ戻されました。主が私に逆らって証言し、全能者が私を苦しめられたというのに、なぜあなたがたは私をナオミと呼ぶのですか。」

22 このようにしてナオミは帰って来た。モアブの国から帰って来たモアブの女である嫁のルツも、彼女と一緒にあった。彼女たちは大麦の収穫の初めにベツレヘムに来た。

## 2

1 ナオミには夫の親族で、エリメレクの家系に属する有力な資産家がいた。その名はボアズで

† 1:16 1:16 「神」と訳されたヘブル語は「אֱלֹהִים」（エロヒム）である。

‡ 1:20 1:20 「ナオミ」は「快い」という意味である。 § 1:20

1:20 「マラ」は「苦い」という意味である。

あった。

<sup>2</sup>モアブの女ルツはナオミに言った。「どうか、畑へ行かせてください。そして、私がその方の目に恵みを得るなら、その方の後について、落ち穂を拾わせてください。」

ナオミは彼女に言った。「行きなさい、私の娘よ。」

<sup>3</sup>彼女は行って、刈り取る者たちの後について畑で落ち穂を拾った。すると、彼女はたまたま、エリメレクの家系に属するボアズの畑の一角に来ていた。

<sup>4</sup>見よ、ボアズがベツレヘムからやって来て、刈り取る者たちに言った。「主があなたがたとともにおられますように。」

彼らは答えた。「主があなたを祝福されますように。」

<sup>5</sup>ボアズは、刈り取る者たちを監督していた若者に言った。「この若い女はだれの者か。」

<sup>6</sup>刈り取る者たちを監督していた若者は答えた。「あれは、ナオミと一緒にモアブの国から帰って来たモアブの若い女です。」

<sup>7</sup>彼女は、『どうか、刈り取る者たちの後について、束のあいだで落ち穂を拾い集めさせてください』と言いました。こうして彼女は来て、朝から今まで働き続けています。家で少し休んだだけです。」

<sup>8</sup>そこでボアズはルツに言った。「聞きなさい、私の娘よ。落ち穂を拾うために、ほかの畑へ行つてはならない。ここから離れず、私のところの若い女たちのそばにいなさい。」

<sup>9</sup>彼らが刈り取っている畑から目を離さず、彼女たちの後について行きなさい。私は若者たちに、あなたに手を出してはならないと命じておいた

ではないか。喉が渴いたなら、水がめのところへ行き、若者たちが汲んだ水を飲みなさい。」

10 すると彼女は地にひれ伏して礼をし、彼に言った。「私は外国人であるのに、どうしてあなたの目に恵みを得て、私を顧みてくださるのですか。」

11 ボアズは彼女に答えた。「あなたの夫の死後、あなたがしゅうとめにしたこと、また、あなたが父と母と生まれ故郷を離れ、以前には知らなかった民のところへ来たことについて、私はすべて聞いています。

12 主があなたの行いに報いてくださいますように。そして、あなたがその御翼の下に身を避けるためにやって来たイスラエルの神、主から、あなたに十分な報いが与えられますように。」

13 彼女は言った。「わが主よ。私があるあなたの目に恵みを得ますように。私はあなたのはしための一人にも及びませんが、あなたは私を慰め、このはしために優しく語りかけてくださいました。」

14 食事の時、ボアズは彼女に言った。「ここへ来てパンを食べ、あなたのパン切れを酢に浸しなさい。」

彼女は刈り取る者たちのそばに座り、人々は彼女に炒り麦を渡した。彼女は食べて満ち足り、残りを取っておいた。

15 彼女が落ち穂を拾うために立ち上がった時、ボアズは自分の若者たちに命じて言った。「彼女には束のあいだでも落ち穂を拾わせ、彼女を責めてはならない。

16 また、彼女のために束から少し抜き出して残しておきなさい。彼女に拾わせ、叱りつけてはならない。」

17 こうして彼女は夕暮れまで畑で落ち穂を拾った。彼女が拾ったものを打つと、大麦約一エバ\*になった。

18 彼女はそれを担いで町に入った。しゅうとめは彼女が拾い集めたものを見た。ルツは、自分が満ち足りた後に残しておいたものを取り出して、しゅうとめに渡した。

19 しゅうとめは彼女に言った。「あなたは今日どこで落ち穂を拾ったのですか。どこで働いたのですか。あなたを顧みてくれた人に祝福がありますように。」

ルツは自分がだれのところで働いたかをしゅうとめに告げ、「私が今日一緒に働いた人の名はボアズです」と言った。

20 ナオミは嫁に言った。「生きている者たちにも死んだ者たちにも慈しみを捨てられなかった主から、その人が祝福されますように。」さらにナオミは言った。「その人は私たちの近い親族であり、私たちの贖いの権利を持つ親族の一人です。」

21 モアブの女ルツは言った。「それだけではありません。彼は私に、『私の収穫をすべて終えるまで、私の若者たちのそばにいなさい』と言われました。」

22 ナオミは嫁のルツに言った。「私の娘よ、あなたが彼の若い女たちと一緒に出かけるのは良いことです。そうすれば、ほかの畑でだれかに害を受けずに済むでしょう。」

23 こうして彼女はボアズの若い女たちのそばにいて、大麦の収穫と小麦の収穫が終わるまで落ち穂を拾った。そして、しゅうとめと一緒に住んだ。

\* 2:17 2:17 一エバは約22リットル、または約3分の2ブッシェルである。

## 3

1 しゅうとめナオミは彼女に言った。  
「私の娘よ。私はあなたのために、あなたが安息を得て幸せになれる場所を探すべきではないでしょうか。」

2 さて、あなたが一緒にいた若い女たちの主人であるボアズは、私たちの親族ではありませんか。見なさい、彼は今夜、打ち場で大麦をあおぎ分けま

3 ですから、身を洗い、油を塗り、衣を着て、打ち場へ下って行きなさい。ただし、彼が飲み食いを終えるまで、その人に気づかれてはなりません。

4 彼が横たわる時、あなたは彼が横たわる場所を見定め、そこへ行って、彼の足の覆いをめくり、横たわりなさい。そうすれば、あなたが何をすべきかを彼が教えてくれるでしょう。」

5 ルツはナオミに言った。「あなたが言われることはすべて行います。」

6 彼女は打ち場へ下って行き、しゅうとめが命じたすべてのとおりに行った。

7 ボアズは飲み食いし、その心が陽気になると、穀物の山の端に横たわるために行った。彼女はそつと近づき、彼の足の覆いをめくって横たわった。

8 真夜中になって、その人は驚いて身を起こした。すると見よ、一人の女が彼の足元に横たわっていた。

9 彼は言った。「あなたはだれですか。」

彼女は答えた。「私はあなたのはしためルツです。どうか、あなたの衣の裾をこのはしための上に広げてください。あなたは近い親族だからです。」

10 彼は言った。「私の娘よ、あなたが主に祝福されますように。あなたは後の慈しみを、初めの慈し

みにまさって示しました。貧しい者であれ富む者であれ、若者たちの後を追わなかったからです。

11 さあ、私の娘よ。恐れることはありません。あなたが言うことはすべて、私はあなたのためにしましょう。私の民の町全体が、あなたが立派な女であることを知っているからです。

12 確かに、私が近い親族であるのは事実です。しかし、私よりも近い親族がいます。

13 今夜はここに留まりなさい。朝になって、もしその人があなたのために親族の務めを果たすなら、それでよいのです。その人に親族の務めを果たさせましょう。しかし、もしその人があなたのために親族の務めを果たそうとしないなら、主が生きておられるように、私があなたのために親族の務めを果たします。朝まで横たわっていなさい。」

14 彼女は朝まで彼の足元に横たわり、人が互いに見分けられる前に起き上がった。ボアズが「この女が打ち場に来たことが知られてはならない」と言ったからである。

15 彼は言った。「あなたが着ている上着を持って来て、広げなさい。」彼女がそれを広げると、彼は大麦を六杯分量って彼女に負わせた。それから彼は町へ入って行った。

16 彼女がしゅうとめのもとに帰って来ると、しゅうとめは言った。「どうでしたか、私の娘よ。」

ルツは、その人が自分にしてくれたすべてのことをしゅうとめに告げた。

17 また彼女は言った。「『しゅうとめのところへ手ぶらで帰ってはならない』と言って、この大麦六杯を私にくださいました。」

18 するとナオミは言った。「待っていなさい、私の娘よ。この事がどうなるかが分かるまで。あ

の人は今日この事を決着させなければ、決して休まないでしょう。」

## 4

<sup>1</sup> さて、ボアズは門へ上って行き、そこに座った。見よ、ボアズが語っていたあの近い親族が通りかかった。ボアズは彼に言った。「友よ、こちらへ来て座ってください。」その人は近寄って座った。

<sup>2</sup> ボアズは町の長老たちの中から十人の男を選び、「ここに座ってください」と言った。そこで彼らは座った。

<sup>3</sup> ボアズはその近い親族に言った。「モアブの国から帰って来たナオミが、私たちの兄弟エリメレクのものであった畑の一部を売ろうとしています。」

<sup>4</sup> 私はあなたに知らせて、『ここに座っている人々の前で、また私の民の長老たちの前で、それを買って取ってください』と言うべきだと考えました。もしあなたがそれを贖うなら、贖ってください。しかし、もしあなたが贖わないなら、私に告げて知らせてください。あなたのほかにそれを贖う者はなく、私はあなたの次だからです。」

彼は言った。「私がそれを贖いましょう。」

<sup>5</sup> するとボアズは言った。「あなたがナオミの手からその畑を買う日には、死んだ者の名をその所有地の上に起こすために、死んだ者の妻であるモアブの女ルツからもそれを買わなければなりません。」

<sup>6</sup> すると近い親族は言った。「私は自分のためにそれを贖うことはできません。自分の所有地を損なうことになるといけないからです。私の贖いの権利をあなたが自分のために引き受けてください。私はそれを贖うことができません。」

7 かつてイスラエルでは、贖うことや交換することについて、すべての事柄を確定するために、このような慣習があった。すなわち、人が自分の履き物を脱いで隣人に渡したのである。これがイスラエルにおける証明の方法であった。

8 それで、その近い親族はボアズに、「自分のためにそれを買ってください」と言って、自分の履き物を脱いだ。

9 ボアズは長老たちとすべての民に言った。「私が、エリメレクのすべてのもの、またキルヨンとマフロンのすべてのものをナオミの手から買い取ったことについて、あなたがたは今日あかし人です。

10 さらに私は、死んだ者の名がその兄弟たちの間から、またその場所の門から断ち切られないように、その所有地の上に死んだ者の名を起こすため、マフロンの妻であったモアブの女ルツを妻として得ました。あなたがたは今日あかし人です。」

11 門にいたすべての民と長老たちは言った。「私たちはあかし人です。主が、あなたの家に入って来るその女を、二人でイスラエルの家を建て上げたラケルとレアのようにしてくださいますように。あなたがエフラタで立派に振る舞い、ベツレヘムで名を上げますように。

12 また、主がこの若い女を通してあなたに与えられる子孫\* によって、あなたの家が、タマルがユダに産んだペレツの家のようにになりますように。」

13 こうしてボアズはルツをめとり、彼女が彼の妻となった。彼が彼女のところに入ると、主は彼女を身ごもらせ、彼女は男の子を産んだ。

14 女たちはナオミに言った。「主がほめたたえられますように。主は今日、あなたを近い親族のいな

\* 4:12 4:12 または「種」。

いままにしておかれませんでした。その子の名がイスラエルの中で高められますように。

15 その子是你にとって命を回復させる者となり、老年を支える者となるでしょう。あなたを愛し、七人の息子にもまさるあなたの嫁が、その子を産んだからです。」

16 ナオミはその子を取り、自分の胸に抱き、その子を養育する者となった。

17 近所の女たちは、「ナオミに男の子が生まれた」と言って、その子に名を与えた。彼女たちは彼をオベデと名付けた。彼はダビデの父であるエッサイの父である。

18 さて、ペレツの系図は次のとおりである。ペレツはヘツロンの父となり、

19 ヘツロンはラムの父となり、ラムはアミナダブの父となり、

20 アミナダブはナフシヨンの父となり、ナフシオンはサルモンの父となり、

21 サルモンはボアズの父となり、ボアズはオベデの父となり、

22 オベデはエッサイの父となり、エッサイはダビデの父となった。

フリーダム・バイブル  
**The Holy Bible in the Japanese Language, Freedom  
Bible translation**

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

この聖書翻訳には著作権が設定されていません。この聖書翻訳の公式な配布元は [eBible.org](http://eBible.org) です。これは翻訳の草案です。この聖書翻訳をより良いものにするため、改善のご提案を [ebible.org+jpnm@gmail.com](mailto:ebible.org+jpnm@gmail.com) までお寄せください。

2026-07-08

---

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 8 Jul 2026 from source files dated 8 Jul 2026

8daadcbf-1b7a-51a2-98ce-7e95a9e95424